

みずほマーケット・トピック(2022 年 5 月 13 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

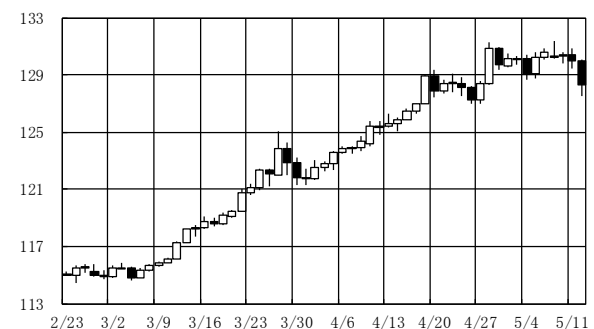
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半に急落。週初9日、130.75円付近でオープンしたドル/円は米金利上昇に伴うドル買いにサポートされじり高に推移し、一時週高値の131.35円まで上昇、先月に付けた約20年ぶりの高値を更新した。その後は株式市場の軟調推移を受けたリスク回避の円買いやポジション調整の動きから130円台前半まで値を下げた。10日、ドル/円は米金利低下を受け129円台後半まで下落したが、複数のFRB関係者による次回会合以降の利上げについての発言が材料視され130円台半ばまで値を戻した。11日、米4月CPIを抑えて130円台半ばで小動きだったドル/円は、欧州時間に米長期金利の低下を受け129円台後半まで下落。海外時間には米4月CPI結果が市場予想を上回る内容であったことを受け130円台後半まで急伸したが、その後は米金利低下や株式市場の軟調推移に129円台半ばまで押し戻された。12日、129円台後半で小動きだったドル/円は米長期金利の低下に伴うドル売りや株価の軟調推移にリスク回避の円買いの動きが散見。海外時間ではその流れが加速し、一時週安値の127.54円まで急落した。本日のドル/円は小幅に値を戻し128円台半ばでの取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半に急落。週初9日、1.0535付近でオープンしたユーロ/ドルは米金利上昇や株式市場の冴えない動きが重しとなり1.05を割り込むも、その後プーチン露大統領が戦勝記念日の式典で「戦争宣言」に踏み切らなかったことの安堵感から一時週高値の1.0592まで反発した。10日、ユーロ/ドルは米金利の動向を睨みながらの1.05台半ばから後半での上下動。海外時間では複数のFRB関係者によるタカ派的な発言にドル買いが優勢となり1.05台前半まで下落した。11日、ユーロ/ドルは米長期金利上昇や米経済指標の良好な結果に1.05ちょうど付近まで値を崩したが、ECB関係者による相次ぐタカ派発言を受け1.05台後半まで急伸したが、株式市場の軟調推移に再び1.05台前半まで押し戻された。12日、ユーロ/ドルは株式市場の大幅下落からリスク回避の動きが加速して一時1.0354まで値を崩し、約5年4か月ぶりの安値をつけた。本日のユーロ/ドルは戻り幅は限定的で1.0380付近での取引となっている。

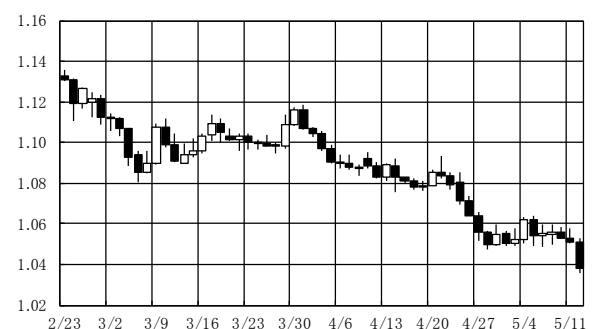
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		5/6(Fri)	5/9(Mon)	5/10(Tue)	5/11(Wed)	5/12(Thu)
ドル/円	東京9:00	130.34	130.73	130.39	130.37	129.83
	High	130.80	131.35	130.57	130.82	130.05
	Low	130.10	130.15	129.80	129.46	127.54
	NY 17:00	130.53	130.35	130.44	129.97	128.30
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0541	1.0533	1.0561	1.0529	1.0513
	High	1.0598	1.0592	1.0585	1.0577	1.0529
	Low	1.0483	1.0496	1.0526	1.0503	1.0354
	NY 17:00	1.0548	1.0560	1.0529	1.0513	1.0383
ユーロ/円	東京9:00	137.27	137.71	137.38	137.23	136.38
	High	138.15	138.28	138.06	137.71	136.72
	Low	136.76	137.15	137.04	136.19	132.68
	NY 17:00	137.67	137.51	137.31	136.68	133.17
日経平均株価		27,003.56	26,319.34	26,167.10	26,213.64	25,748.72
TOPIX		1,915.91	1,878.39	1,862.38	1,851.15	1,829.18
NYダウ工業株30種平均		32,899.37	32,245.70	32,160.74	31,834.11	31,730.30
NASDAQ		12,144.66	11,623.25	11,737.67	11,364.24	11,370.96
日本10年債		0.24%	0.24%	0.25%	0.25%	0.24%
米国10年債		3.14%	3.03%	2.99%	2.92%	2.85%
原油価格(WTI)		109.77	103.09	99.76	105.71	106.13
金(NY)		1,882.80	1,858.60	1,841.00	1,853.70	1,824.60

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、今晚 13 日(金)に 5 月シシガン大学消費者マインド(速報)が発表される。4 月の結果は 65.2 と速報ベースの 65.7 から下方修正されたものの 4 か月ぶりに改善した。要因としては、3 月からガソリン価格が低下したことに伴い景気と家計の見通しが改善した点が指摘されたが、依然として 2 月、3 月に記録した 10 年ぶりの低水準から若干上振れた状況である。5 月に入り FRB が 50bps の利上げを決定したことにより、米経済へのオーバーキル懸念から債券・株式をはじめリスク性資産の価格にも調整が入っているが、この影響が消費者心理にも及ぶかに関しては注目すべき点とみられる。1 年先のインフレ期待は +5.4% と 3 月から横ばいの推移、5 年～10 年先のインフレ期待についても +3.0% とこちらも 3 月から変化はなかった。なお、5 月の結果についてブルームバーグの事前予想ではシシガン大学消費者マインドを 64.0、1 年後の期待インフレ率を +5.5% と見込んでいる。
- 本邦では 18 日(水)に 1～3 月期 GDP(速報)の発表を控える。10～12 月期 GDP(改定値、以下同様)は前期比 +1.1% (前期比年率 +4.6%) となり、プラス成長に転じたがそのペースは緩やかであった。主な内訳をみると、個人消費は前期比 +1.6% とプラスを回復したものの、自動車や家電といった耐久財の販売が速報ベースから下方修正されたほか、外食や鉄道輸送をはじめサービス消費も速報値から下方修正されている。また、21 年通年での結果は、前年比 +1.6% の成長に留まり、主要国の中で日本だけがコロナ禍前の水準を回復できていない状況は続いている。今次公表の 1～3 月期 GDP に関しても、厳しい数字になることが見込まれる。オミクロン株の感染拡大によって再度行動制限措置が敷かれたことやウクライナ危機の長期化に伴う資源価格の高騰、世界経済全体の減速懸念が高まったことなどが大きく足を引っ張るものと考えられる。なお、ブルームバーグの事前予想では 1～3 月期 GDP を前期比 ▲0.5% (前期比年率 ▲1.8%) と見込んでいる。その他の経済指標関連として、20 日(金)には 4 月全国 CPI が公表予定となっている。

	本 邦	海 外
5 月 13 日(金)		・ユーロ圏 3 月鉱工業生産 ・米 4 月輸出/輸入物価指数 ・米 5 月シシガン大学消費者マインド(速報)
16 日(月)	・4 月国内企業物価指数 ・4 月工作機械受注	・ユーロ圏 3 月貿易収支 ・米 5 月 NY 連銀製造業景気指数
17 日(火)	・3 月第三次産業活動指数	・ユーロ圏 1～3 月期 GDP(改定値) ・米 4 月小売売上高 ・米 4 月鉱工業生産
18 日(水)	・1～3 月期 GDP(速報) ・3 月鉱工業生産	・ユーロ圏 4 月消費者物価指数(確報) ・米 4 月住宅着工件数
19 日(木)	・4 月貿易収支 ・3 月コア機械受注	・ユーロ圏 ECB 政策理事会議事要旨(4 月会合分) ・米 4 月中古住宅販売件数
20 日(金)	・4 月全国 CPI	・ユーロ圏 5 月消費者信頼感指数(速報)

【当面の主要行事日程(2022 年 5 月～)】

ECB 政策理事会(6 月 9 日、7 月 21 日、9 月 8 日)

FOMC(6 月 14～15 日、7 月 26～27 日、9 月 20 日～21 日)

日銀金融政策決定会合(6 月 16～17 日、7 月 20～21 日、9 月 21～22 日)

市場営業部・金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年5月12日	米4月CPIと今後の考え方について
2022年5月11日	インバウンド解禁と円安抑制の関係性
2022年5月10日	「資産所得倍増プラン」の危うさ～為替・金利への影響～
2022年5月9日	「中銀の財務健全性」と「通貨の信認」について
2022年5月6日	週末版(FOMCを終えて～「50bps→25bps」のブレイクが重要～)
2022年5月2日	円安を止める3つの処方箋～日銀・原発・インバウンド～
2022年4月28日	週末版
2022年4月27日	ECB、7月利上げ説は本当なのか？
2022年4月25日	円安にまつわるQ&A:よくある疑問の論点整理
2022年4月22日	週末版
2022年4月21日	円の命運はまだ自ら変えられる～需給で円安の修正余地～
2022年4月20日	IMF春季世界経済見通し～戦争が変えるメインシナリオ～
2022年4月19日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年3月分)
	表舞台に引きずり出された日銀の現状と展望
2022年4月18日	本当に恐ろしい円安リスクは「家計部門の円売り」
2022年4月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～勝負は6月会合に～)
2022年4月14日	「インフレで苦しむ」を想像できない日本
2022年4月13日	円安を止めるには～日本要因と米国要因～
2022年4月11日	ECB政策理事会プレビュー～レールン理事に同調～
2022年4月8日	週末版(本邦2月国際収支統計を受けて～円安の流れを変えられるかは日本次第～)
2022年4月7日	FOMC議事要旨～株価に対し非常に厳しい内容～
2022年4月6日	「日本売り」を認められない論陣をどう評価するか
2022年4月5日	過去最低を更新したドル比率～世界の外資準備運用～
2022年4月1日	週末版(細る対内証券投資～今後も嫌われそうな日本市場そして円～)
2022年3月30日	日銀とトルコ中銀の類似性～ルーブルにも負ける円～
2022年3月28日	円安のメリット・デメリット～優勝劣敗の徹底～
2022年3月25日	週末版
2022年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年2月分)
	「貿易黒字の消滅」から「貿易赤字の定着」へ
2022年3月18日	週末版(GDPデフレーターに注目すべき局面～「デフレの原因はインフレ」という理解～)
2022年3月17日	FOMCを終えて～短期決戦型の利上げ。効果は24年以降～
2022年3月15日	円安相場の考え方～「三步進んで二歩下がる」～
2022年3月14日	3つの円安要因～「成熟した債権国」が終わる時～
2022年3月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「戦下の正常化」に着手～)
2022年3月9日	経常赤字は新常態なのか？～「債権取り崩し国」へ～
2022年3月8日	賃金上昇が遅れるユーロ圏、「嵐の前の静けさ」か？
2022年3月4日	週末版
2022年3月3日	ロシアのデフォルトはシステミックリスクになるのか？
2022年3月2日	ECB政策理事会プレビュー～安全通貨としてのユーロ～
2022年3月1日	日銀のロシア中銀取引禁止について～保有資産の実態～
2022年2月28日	SWIFT遮断にまつわる論点整理～7つのQ&A～
2022年2月25日	週末版
2022年2月24日	年初来の為替市場総括～円キャリー取引復活の兆候？～
2022年2月22日	孤立する日本株市場～「新しい資本主義」の誤解？～
2022年2月21日	ECB利上げの有無について～非公式政策理事会を前に～
2022年2月18日	週末版(「50年ぶりの円安」が意味するもの～「経済より命」路線の結末～)
2022年2月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年1月分)
	円相場の構造変化～変わる基礎収支の姿～
2022年2月16日	ラガルド講演を受けて～認める金融政策の無効性～
2022年2月15日	本邦10～12月期GDPを受けて～依然大きな内外格差～
2022年2月14日	「開始前から終盤」の様相を呈するFRBの正常化プロセス
2022年2月10日	週末版(ウクライナ問題～ドイツの自衛行為は止まらないのか～)
2022年2月8日	為替は金利の代わりに政治へアラームを鳴らすか？
2022年2月7日	米1月雇用統計～労働参加率上昇にも注目すべき～
2022年2月4日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げは最速7月か？～)
2022年2月2日	沈む円相場の全体感と日本の現状
2022年2月1日	オーバーキル懸念が色濃くなる米国経済
2022年1月28日	週末版
2022年1月27日	FOMCを終えて～いつまで株価を無視できるか～
2022年1月26日	IMF見直し改定について～リスク満載の世界経済～
2022年1月25日	孤立感が強まるドイツ～シュルツ政権の迷走～
2022年1月24日	夜明けは近いのか、遠いのか～鳴かないカナリア～
2022年1月21日	週末版(インフレに変化を強いられそうなECBの政策姿勢～ドイツ10年金利は約3年ぶりにプラス圏へ～)
2022年1月20日	米実質金利上昇とドル相場への影響
2022年1月19日	日銀金融政策決定会合～「悪い円安」をどう処理するか～
2022年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年12月分)
	続きそうな「日本回避」～「市場の声」は届くのか～
2022年1月17日	既に漂うオーバーキル懸念～「最後のテーマ」は？～
2022年1月14日	週末版
2022年1月13日	円安と物価高と国民感情の近況について
2022年1月12日	「嵐の前の静けさ」を警告するIMF
2022年1月11日	信じて貰えないECBのハト派姿勢
2022年1月7日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「正常化レースの進捗」≡「為替の進捗」～)
2022年1月5日	欺瞞を晒したEUの天然ガス・原子力グリーン認定
2022年1月4日	2022年、円安・ドル高シナリオの死角は「日銀の正常化」か？
2021年12月28日	2022年の為替概観②～「2つの正常化」と新興国～
2021年12月27日	2022年の為替概観～2つの「正常化」が作る世界観～
2021年12月24日	週末版
2021年12月23日	円相場の近況～5年ぶり値幅、最低の取引量、感染拡大～
2021年12月22日	無視はできない需給面のドル安リスク
2021年12月20日	2021年に浮上した「悪い円安」論を再考する
2021年12月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ラガルド・バズーカ」と利上げ見通し～)
2021年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年11月分)
	FOMCを受けて～今度はインフレが「一時的」であるリスク？～
2021年12月15日	「安い日本」を体現するアパレル生産日本帰報報道
2021年12月13日	41年ぶりの企業物価上昇～圧迫される企業収益～
2021年12月10日	週末版(いきなり外交的試練に直面するドイツ新政権～北京五輪という「踏み絵」～)
2021年12月8日	2022年も「日本回避」がテーマか～首相演説を受けて～
2021年12月7日	過去最大のインフレ率を前にECBはどう動くか